

明治五年鐫

近世史談

共立舎藏版

近世史談初篇卷二序

今此書を譯し。合衆國の獨立せる緣由を考へ。以て大不英イギリスの失を嘆息せり。それ國君と人民との際あひだは豈いか不難かたきものふあらずや。明君賢相ふあらざれば。未萌びほつふ禍を慮るを知らず。事の何如ともす。憂うれきふきよ至いたて始はじめ其及そのばざるを悔くるのみ。爰こゝに英の君王并議事員等の所為しわざを見るふ。其國の盛大富強を恃たみ。其國の臣子たる植民輩まよぐんらを仇

特32
200

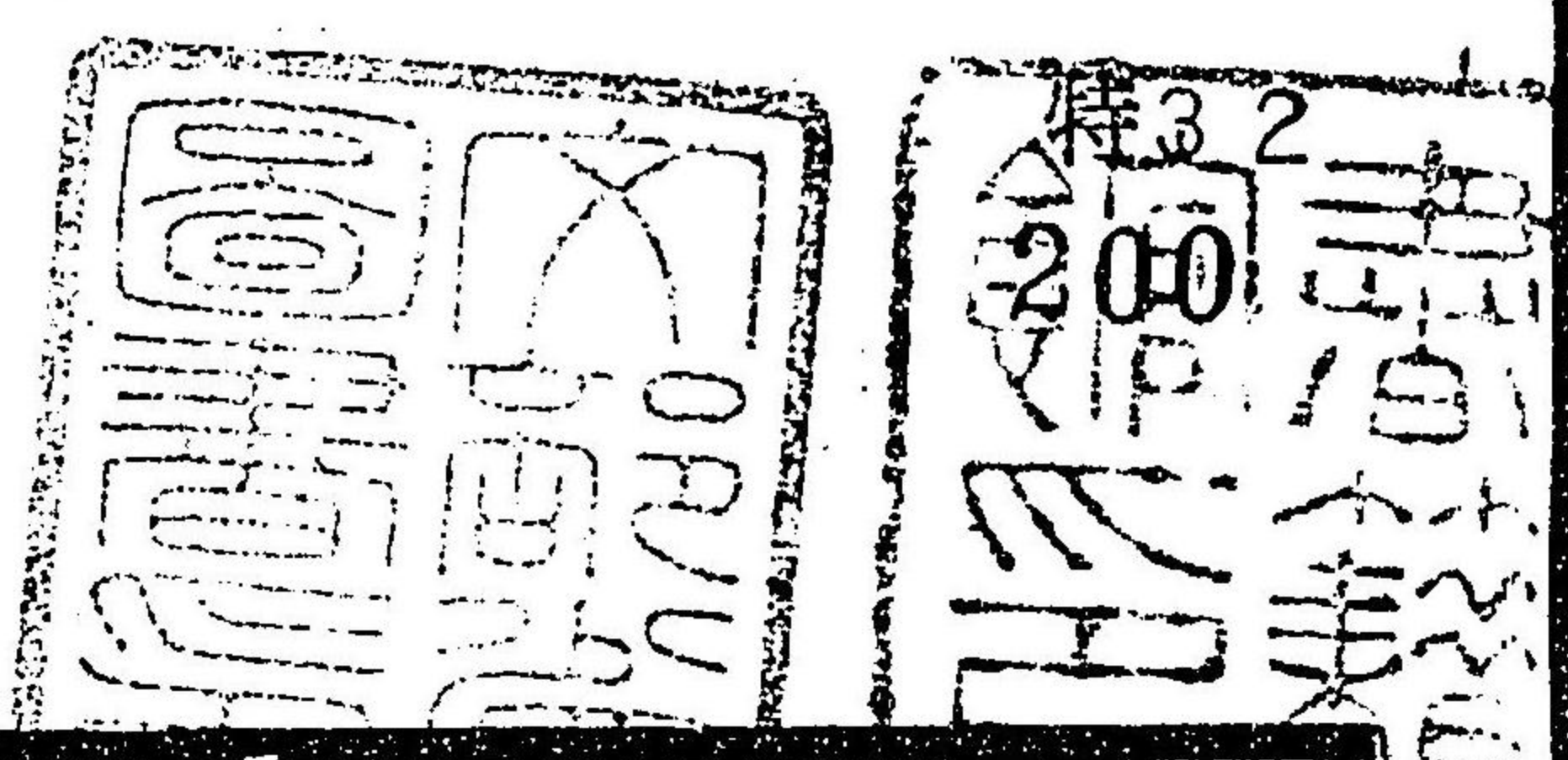
明治五年鐫

近世史談

共立舎藏版

近世史談初篇卷二序

今此書を譯し。合衆國の獨立せる緣由を考へ。以て大小英の失を嘆息せり。それ國君と人民との際^{いざな}は豈^{いか}不難^{かた}きものふあらずや。明君賢相^{いんぎん}ふあらざれば。未萌^{いぼう}ふ禍を慮るを知らず。事の何如ともす。過ぎふきは至^{いた}て始^{はじ}めて其及^{およ}ばざるを悔^くるのみ。爰^{こゝ}に英の君王并議事員等の所為^{しわざ}を見る。其國の盛大富強を恃^たみ。其國の臣子たる植民^{ちくみん}輩^らを仇



視し。曾て仁愛の心なく。威を以て之を壓し。力を
以て之を制し。加之其民情をも曉らざして。事を
行ひけむ。植民輩これ不堪へば。乃ち兵禍窮乏
の餘を以て。盛大富強の國に敵し。遂に獨立の大
業を成したり。蓋し事おれ不至て。英王并議事員
等。皆その謀の臧らざるを悔るなきを得ば。
然もども悔て及をば。その臭恥を世に傳へり。吁
英と合衆國との得失を考ふるもの。亦鑒みざる
を得んや。

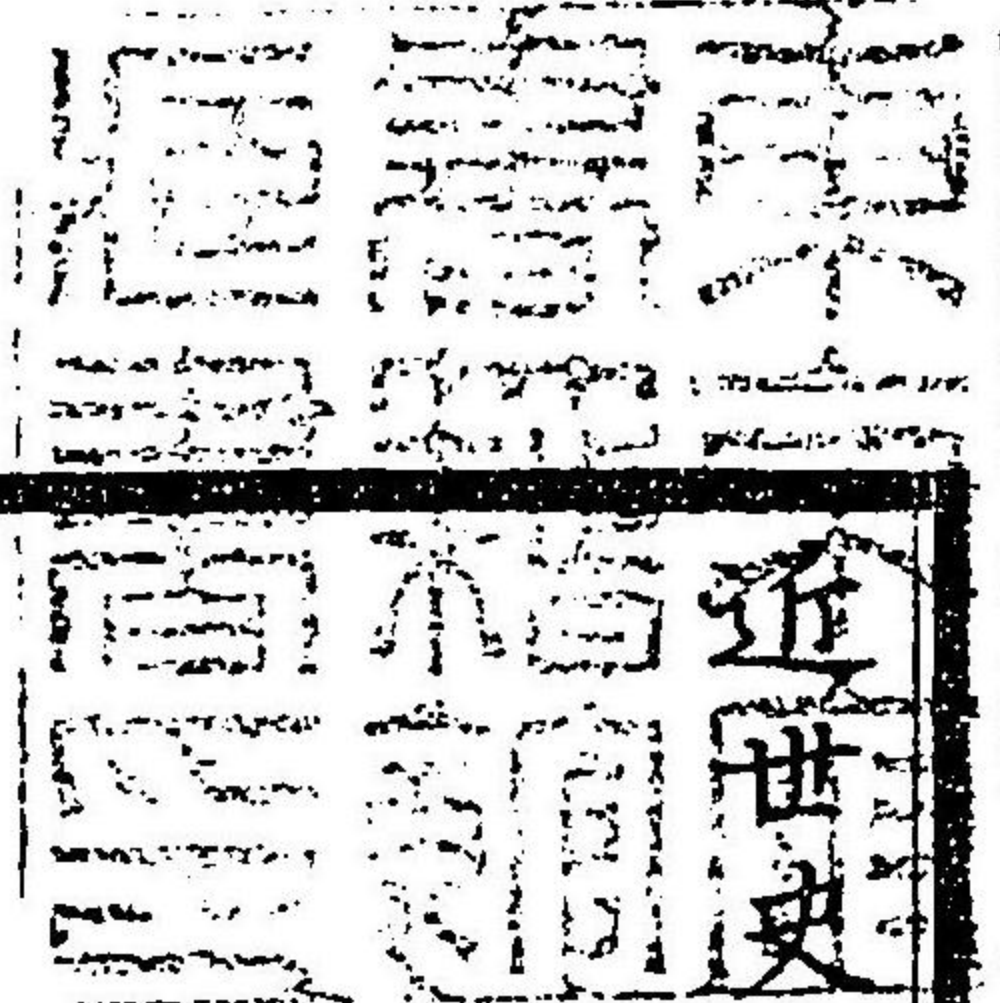
吉田賢輔識

初篇合衆國部卷二目錄

- 一 和蘭人亞國に於て植民する事并ヘンリヒエド
オランダ アメリカ ソンの事
- 一 ビルグリム、フアゲルの事
- 一 プリモースの植民地の事
- 一 新英の植民地の事
- 一 マリランド、デラワル、ニウギエルセー、の植民地
の事

- 一 フイリップ王の戦の事
- 一 ウオルジニヤの土人動乱、ネベークン叛逆の事
- 一 佛蘭西人の植民する事
- 一 ウイリアム王の軍の事
- 一 女王アンナの軍の事
- 一 華盛頓の事
- 一 佛人并土人との戦の事
- 一 佛人并土人との戦の終、ネゼラル、ウルフ及
ビモントカーム戦死の事

- 一 革命乱の濫觴の事
- 一 初戦の事



近世史談合衆国部卷二

須藤時一郎
吉田賢輔
纂述

和蘭人植民する事并ヘンリヒドソンの事

今のニウヨルク邦邦におゐて植民せしむ和蘭人
にて初初免ニウヨルクの都府の名をマンハツタ
ンと云ひしは酒醉しよすたいの地といふ意ある土人の語
かり扱さいて何なにゆへゆへ不斯ふすかく名づけしやを問とふに最初

ヒュドソンの船到着せしとき土人は船の近づくを眺めはく只怪しく思ふて船たる去きを解らば或は去れを浮べる戸舎と思ひ或は去きを大なる魚と考へしが遂に彼等を尋ね来る所の神物を載せたる大船と決思せり此におおて土人等祝宴を催し舞ひ躍りてありしがヒュドソンの船は止まりて小舟を下しヒュドソン并その人数の者大れ不乗りし由へ土人等は神物の来ると思ひ之を遇するの用意をなせり斯てヒュドソ

ニあるは上陸して土人等は一礼を為しそれより酒壺を出し自ら一杯を飲み又一杯を把て側かゝる土人不興へしが怒りて飲み得ば只去れを嗅がて側あるものを送りしが又段々不手から手へ渡し味ふものも無りし不土人中の一人思ひけるやう斯く飲まずしては神の怒不觸るべしとて其杯酒を飲みしが忽ち踵として倒れたる土人等は驚きて此ものは死せらるんと思ひし不頓て起き得て曾て斯の如き満足を覚へ

ざりしと告げれば皆我も我れと飲みおけりヒ
ドソンは是より一回歐羅巴へ立ち帰り又亞国
へ来りしが此時ヒドソン湾を發見せり叔和蘭
人よりはヒドソンの尋ねし所の地方へ商船をさ
し送り土人等と交易をおせり然して之が為め
利を得しうば商人保護のため所へ臺場を設
けたり乃ち此に植民して其地を新アムステル
ダムと名けしが是ぞニウヨルクの大都府の基
礎ありし斯て此辺の全き地方を新子ーゼ

バラントと名けたり

ピルグリム、フアゾルの事

甲比丹ジョン・スミスは一の船旅より今のメ
ンサマサチユセツツの海濱を探訪し此北にあり地
方を新英^サ国と名けたり叔此地に植民したるは
ピルグリム、フアゾルと云ひし仲間にて千六百
二十年我元和ふあたり始めて植民したるあり
此輩はピリタ^六ンと称する宗徒ありしが英國ふ

かゝて苛逆かきぎやくの扱を受けし由へ阻碍そくがいなく其信仰
する宗旨を守らんがため亜國アメリカへ移住せん去と
を決したり因て百人の宗徒メーフローエルと
名くる船ふ乗り込みヒドソン河の近辺に住せ
ん去とを企てたり然るに船中より颶風ふ逢ひ
けむ目ざす処へ到る能はず遂にマサチユセツト
の海辺にありあるコツト岬の恐ろしき濱に吹き舟
けられし因て海辺の地を探訪せしが土人の墓
所并僅々の穀物の積たるあるのみる其地は

一物をも見ざりし扱此時の氣候は極めて寒く
白雪地に鋪きたり時一小艇こせんより善地を見ん
ため出でしものありしが寒気の烈しき去とよりは
衣きものに洒しぎし水泡氷みづこりて衣の堅く光ひかりあると恰
も鋼鑄はがねの如くありたり斯かくて此小艇は一の善
き港を見出せし由へ此こに上陸せんと決心しメ
ーフローエルにあり仲間を呼び迎へ共ともに上陸
したり是これ千六百二十年元和えんわ十一月二十一日
の事あり即ち此地をプリモースと名けたり扱

是より此の家を建てかゝりしが多くは病を得て既な其内の六人は其月の内ち死したる一時いちじは殆んど仲間残のこらば病を得て卧したまども皆銳氣を挫くかば一心いっしん神を信じたり

プリモースの植民地の事

プリタン宗徒は寒さよて極て難儀なんぎし病人多く遂つひに仲間の半分は死せしほどの苦しみありしが漸だく暖氣ぬかふ赴おもむき野の景色青あざくとありたりけ

れば病人も平愈したり然まども尚なほ食の乏せきみ苦しき耕作も未など十分あらば河に魚あれども之これを取とるの網あみなし実じつに明日の食の用意よういなくして夜眠よるふ就すて去いと屢しばしばありし斯かの如く苦しみしが三四年の後は次つぎに繁昌はんじやうふ赴おもむきたり

新英の植民地の事

千六百三十年寛永七年プリタン宗徒の許多おほの者渡来わたりしカンブリヂボストン其他の場所ばしょを設立せつりせ

り叔此輩も最初は飢寒のため不苦しみしが速
不繁昌不赴き穀マクひく車仕掛を製し且他の植民
地と貿易カウチキを為したり此ボストンボストンは今不おるて
新英中の大都府あり

植民の内不ローガル、ウイリアムスと云ふ人あ
り此人の信向は他のプリタン宗の人と異あ
ふ因りマサチセツ湾の人民此ウイリアムスを
英国不戻カトさんと決したりしがウイリアムスは
此企を知り遂不其地を出奔し曠野不到イタり三ヶ

月ほど雨雪の間を徘徊し遂不ナラガンセツト
湾不おるて一地方を土人より買ひ植民地を開
き之をプロウイデンスと名けたり是スロードアイ
ランドのオ一の植民地あり

コン子チコットは新アムステルダム不居る和蘭
人の發見したる地ありしが和蘭人此キ不臺場を
築き土人と貿易を開きたり

コン子チコット不居る諸土人の内よりペクオー
ト人種はテームス河辺不住せし不歐羅巴人の

蔓延マンエンするを見て嫉み且恐れけるが歐人オウジンも亦猜忌サイギの念を生したり此時コトキまでは歐人オウジンと土人の間マ平和ありしが此疑コトウタガヒよりして速スに争乱ソウランの基を開きたり

土人等オルトハムと云ふ一の歐人オウジンを殺せしらば新英シンエイの人民ミン此兇徒コウトを罪するを決しペクオート村オートムラに向て出陣せしが土人等は逃去ニゲし由へ戸舎美穀田ミコクを焼き拂ひたり因てペクオード人等は惨酷サンコクある復讐フシウを企て欧人オウジンを見れば婦

人小児までをも無慈悲ムシヒふおれを殺害せり此小おわて植民等シミンはペクオードを討伐トウバツすべき一組の人数ニンズを突し恰アツも日出の前ヒデノマエに彼等の寨サイに達し放火ハツカし烟中ケミナカより逃去ニゲする土人等を砲ヒョウにてお殺し一時間イチコウカンに六百人の土人をお殺したり然るに又翌朝アシタ他の寨サイもある土人等出でて来りて再び戦ひ大に勇気を振ひたせども遂に美人メイジンをお敗マクられ僅ワザうに生残りしもの共トモも尚窮追キウツイせられペクオードペクオード全種ゼンシュ滅亡メツボウに及びたり

ペクオードの戦の後千六百三十八年寛永十年英國より来りしピリタン仲間ニウヘウン府を建てたり此頃より新英の植民地は次方小盛大小赴き千六百四十年寛永十年より五百ヶ村以上の村を保てり

マリランド、テラワル、ニウヂェルセーの事

マリランドは英王よりロルド、ボルチモール小興へられたる地にてマリランドと云ふは女王

マリアの名に從て名けたるありロルド、ボルチモールは此地を開拓せざる以前に死去しければ千六百三十四年寛永十年に當り其子セシルカルウルト二百人の移民を英國より送り送たり此移民等ホトマック河を帆かけ上り土人より或る地を買ひ小村を開きて土人小恵む小刀、鋤、斧等をもつてせしが其報礼として土人の婦女等玉蜀黍餅の製方を教へたりマリランドの植民は他の植民の如く苦しまざりし

デラワルは千六百三十八年寛永十五年に當り瑞典人英フィンランド人の開きし地ありしがニウ子ウゼルランドの和蘭人の降伏を待ち時和蘭の方よりスチウエサントと云ふ老功の武夫ありたり

英王は和蘭人の領せし亜の地を暴ボウ己おのれがもの如く其オヨルク公に與アツカられ船隊を向けられたり其時スチウエサントは此船隊近づき来らば砲撃せんと用意したりしが此地の人民は英

人と戦んとあらばスチウエサント一人りてかすべしと云て更お指揮お従をぎりしりば勇猛あるスチウエサントも止むを得ずして遂に英に降れり故に和蘭人の領せし地は全く一彈丸をも費やさずして英人の手に落ちたり因て此地をニウヨルクと改名したり

ヨルク公此地を領せしとき此地の一部を二人の朋友に與へらまたりしりば此人は其與へられたる地をニウゼルシーと名けたり此

は此地に居るものより自主自由の権を許せしむば速に人民群集の地となりたり

フリッツ王の戦の事

ペクオードの戦の後数年の間英人と土人との戦争あかりしが千六百七十五年延宝三年マサチューセツトに住せる欧人を掃蕩せんと企てたるフリッツ王の兵起まり叔フリッツは英人と懇親ありしマサソイトの子りてナラガンセット湾の東あり口

ードアイランドに住せるソンプノアグス人種の頭領あり既而欧人大に繁殖せる由へ土人等恐むて之を拒んむとを企てたり然もどもフリッツは英の威力をよく知る由へ兵事を好まざれども驍立たる臣民を制する能む因てマサチューセツトの村を襲ひ農家を焼き拂ひたり其年亦十一月英の方よりフリッツを征する兵をさし向けしが土人勇しく防戦せり然もども全く英人に亦敗られしガフリッツ王はナラガンセットの頭領か

ノンチエトは逃ま去りしふ三四ヶ月の後遂ふカ
ノンチエツトは生捕ふあり刑ふ処せられたりけ
れどもフイリツプは尚各地を暴^あき廻^まりたりしが遂
ふ土人の己^{おのれ}は背きしものふ殺され斯^{かく}て此戦は
止みまけり

ウォルジニヤの土人の動乱并ベーコン叛逆
の事

ウォルジニヤふおゐてポーハタン死せしときポ

ーハタンの才其位を継ぎしぐ速に英人と敵と
ふり不意に各植民地を襲ひ数百人を殺したり
しうば此兇徒を征するため一組の人数を向け
遂にポーハタンの才を生捕り砲で打殺した
り

ベルケレーと云ふ人ウォルジニヤの鎮臺たりし
は此人初めは人望を得しが後其身の富を計り
土人と貿易せしむへ土人等乱を起し歐人を殺
せども貿易の妨^{たげ}あらんを恐れ防禦の手段^{ヨウゴハバ}をか

ギブクリシグ此頃英よりベーコンと云ふ人到着してありしは智勇の士ありば土人の暴を閉き一隊の人数を引き土人を追ひ撃ちたり但鎮臺の免許ふしお為せしおと由へ謀叛人と唱へられ遂に鎮臺と敵對となりしはベーコン勝利を得てジエームストーンよりベルケレーを追ひ拂ひたり扱ベーカーンは勝利の最中不死せしうばベルケレー再び威を得てベーコンの党二十余人を死し処し以前より尚甚しく人民を苦めたり

り

カロライナ并ペンシルワニヤの事

千六百五十三年承應に當りウオルジニヤの植民或は北カロライナの季候善きと土地の饒あると不誘られ其所に到り住みたり又千六百七十年寛文に當り英の移民南カロライナを開きたり此南北二邦の人民屢く鎮台と議論お及びしが遂に其意を達し得て繁栄の地とおしたり扱

カロライナにて重く植育たる品も米並綿もてありたり

ウィルリアム・ペーンはクエーカー宗の人ありしが其宗門の事は因り英に於て獄舎に繋ぐれ甚く困苦したる事ありし故に自由幸福の植民地を開かんとして欲したりしが時の英王はペーンの父子大金を借りたりしに其の償にペーンは新世界に於て土地を興へられしにあり其地をペンシルワニヤと名づけたり此植民仲間は

千六百八十二年天和二年亞国の海濱に着し其明年スリガファイルデルフイア府を建てたり斯て土人と親しく交りしに七十年の間此地に於ては土人と英人との間小争ひはとあらざりしとあり

佛蘭西人の事

千六百八十八年慶長十三年佛蘭西人セーント・ローレンス河の左岸に於てキュビツキ府を立て許々の植民地をカナダに於て開きたり

ウイリアム王の軍の事

佛人カナダに於て多くの地を領し大小威を振
 ひしが英人は尚多くの植民地を保ち隨て威力
 も益々大なりしゆへ此兩國の間小猜忌を生し
 千六百八十九年元録佛英兩國主の間小争ひを
 生ぜしうば新世界に於ても直小争端を起し佛
 人は土人を煽動して其翌冬佛人並土人の一隊
 千子クデーといふ英人の村を取りたり因て英
 人は佛人に向ひ二個の兵隊をモントリール并

キユピッキホサー向けしうども一隊は敗られて退
 きぬ叔此時の軍は多く佛人より勝利ありたり時
 の英王はウイリアム第三世あれば此軍をウ
 リリアムの軍といふ

女王アンナの軍の事並ジョルジヤの事

千七百二年元録十英佛并西國の間小軍起りし
 か。時の英王は女王アンナあれば之をアンナの
 軍といふ叔南カロライナの鎮台コロリダのセ

ーント、アウグスチン、ふあ、西人、ふ向て進發せ
 し、其府を取り得る前、西船来り助けし、
 此鎮台の兵は逃去り、其後佛西の同盟ある土
 人を征し、村々を焼き拂ひ、数多の人を捕へたり
 ければ、佛西人之、報んため、千ヤレストニを襲
 ひたり、けれども、其地の住民、勇しく抗守し、佛西
 人を追ひ退け、且佛の軍艦を取りたりしとぞ
 千七百四年、元室、冬、カナダより、佛人、英土人、等、マ
 サチュセツの北部、テ井、ア、フイルド、ふ来り、番兵の

虚を伺ひ、柵上を越て、高く降り積りたる雪を上
 り、府内、ふ入り、家々、ふ火を放ち、許多の人を殺し
 又は生捕りたり

千七百三十三年、享保十、オゲレソルフといふ人
 英王、ジョルジ、オ、二世より、新世界の一地を興へ
 られたり、けさば、其地を、ジョルジヤと名づけた
 り、叔移住人民の仲間と共、ふサワ、ン、ナ、河、ふ来着
 し、サワ、ン、ナ、府を立たりしが、尚、更、ふ、許多の移民
 渡来し、けさば、植民地、大、ふ栄へたり、是れ、全、く、か

ゲレソルフの処置よき由へありとぞ

華盛頓の事

歳月を歴るシ不随ひ亞国の地方まで英佛人の數カ大小増加したりし不此兩國人の有せる地の境界定まらば互不猜忌の念を生じたりしが佛人は其見出したるオハイヨ並ミスシッピの膏腴ある地を我領分ありといひ主人を懐カけんため使節を送り且此境上にある英の軍營を壊り力

ナダホオで英商を捕へ送りたり。これよりして土人等も畏心を生し佛人の方子人を送り右等の地方は神よりして土人は賜りたる所ありと言ひける不佛將は之を顧思せざれば地方は我ものなれば我去れを領まべしと答へたり因て土人は英人と条約を結びければオオルジニヤ不ある英の鎮臺より佛人使を送り其侵入を禁ぜんとせり。さて此使の任は選挙せらるる人は誰ぞや二十一歳の少年あり是合衆国の国父ある

ジョージ・ワシントンと云へる大人ありワシントン
 はウオルジニヤのホトマツク川おちかき農家
 ぶ生れたりしが其母賢りてワシントン小教
 育する志を高ふし信を守るを以てせり曾て玩
 あそびの斧を得し小斧双を試みんため庭園を
 経過し童心こころは偶然父の愛もむ櫻樹を傷つけた
 り因ゆゑて父より問ひけるやう誰たれり斯かる不良を働
 きやと云ひけるもワシントンは暫時猶豫し
 て一言をも発せざりしが頓やがて云けるは父君よ。

小子は詐をいふ能む櫻樹を切りたるは小子
 ありとて泣きけるが父は大に喜びてワシント
 ンを引き寄せはく是愛見これよ。我は我児の詐を云
 ふを聞くよりも寧ろ櫻千本を失ふはんと云ひ
 たりしとぞ叔ワシントンは騎馬小長じこれ小
 名高くありたり曾て其母二匹の馬をもちしが
 其一は騎乗し馴なれざりし小一日此馬後園に放
 たせてありければ一二の少年輩これに乗らん
 を試みし小馬これを拒て乗らしめず遂に試み

ちの甲斐もあく止めけるが其輩の内より最も
 少年ありワシントン。馬の跳蹴はつきをも顧みば馬上
 一跨り駆け廻り馬の疲き果るまで騎り遂げた
 り又ワシントンの学校にありや嬉戯并学業と
 も皆衆童の魁とありたり其後量地者とありて
 ポトマック河辺の曠地を量りしが時不林中不露
 宿し獣をおて親オウから料理し木片を器き皿へいとし指
 頭を食義としたりしとぞ叔ワシントンの実義
 是勇氣とも世間より知れければウオルシニヤの鎮

臺遂おられを選挙し使節として佛人の方へさ
 し送りたり抑も佛人の寨はペンシルワニヤの
 北西にありて其処へ至るべきの通路は森林沼
 澤并雨雪より満盈したる河流あればワシント
 ンは実不夫辛苦をして其寨不到着したり時不
 佛將は船の出帆の備をふしてありしが来春一
 至らばオハイヨ河を下り多くの英の寨を滅くす
 べしとワシントン不話はなしたり且ワシントンと
 同伴の土人をも騙だましてワシントン不背かしめ

んと企てたり斯る極難の場合をワシントンに
辛して免かれ逆も使命の達せざるを察し佛人
の企を探り得べき犬尽く窺得し帰路の旅不赴
きたり扱帰路は最も難美りして天氣極て寒く
馬も用立たざれば雪中を徒歩したりし不背き
たる土人は銃もてワシントンを狙撃したれど
も狙を誤て当らざりし遂に一人の友と共に氷
の満ちたる河不着しければ筏を組てこれに乗
り棹し渡らんとせしお筏は氷塊の内不押し込

まれーのへワシントン勉強して棹を取り働
しよ危哉水中に陥り辛く其命を助かりたり斯
る多くの難所を逃さしは神のワシントンを加
護せしあり扱恙なく帰て巨細の事情をウアル
ジニヤの鎮臺不語りしゲワシントンの此挙動
を賞讃せざるものは無りしとあり
此後亞不かみて英佛の長き戦争起りたり

佛人並土人との戦の事

さて英人はワシントンの勸戒に従ひペンシルワ
ニヤのヒットスボルグ一砦を築きかゝりしが
未だ落成おあばざらぬ佛人を奪えれ遂に佛
人の手より落成せしうば佛人を去れるジユカン
砦と名けたりワシントンの指揮せる一軍隊此
砦を守らんと免送られたりしが既に時に後れ
しゆへ此軍隊は夜討をよりて佛人を驚かし十
分に勝利を得たり然るにワシントンは速に佛
人と土人との兵を取田まれ其砦を渡すべきあ

と小決せしが軍容を失はる軍需を保て去れを
去るを許されたり

千七百五十五年乙寶曆に當りゼ子ラルブラドック
佛人を攻めた免大軍を將て英の本国より送ら
れしが荒地を経て緩くと進みゆくジユカン砦
に向ひたりワシントンも此隊に加りければ土
人の伏兵を備ふべきやうにゼ子ラルルを勸められ
どもブラドックは其勸を従わぬ夷人ども豈に大
英の兵に害を加はるを得んやと大言せり。さてブ

ラドックの兵隊ジユカン砦の數里内不來りしと
 き不意に此隊の上へ彈丸雨の如く來り。土人の
 叫ぶ声。前不聞へ又兩傍不聞へたり。斯て土人は
 岩石樹木の後不隠れし由へ英人は返射るもか
 よぐん打倒されければ前軍崩れて本陣不戻り
 來りりウオルヂニヤの勇夫等は一時許り勇み戰
 ひたれどもその他の兵は紛然として荷物をも
 捨て逃たり此時ブラドックは散るたる我兵を纏
 ゑんとて働きたりしが治す可らざる疵を受し

由へ大將の任ワシントン不歸せし由はワシン
 トンは身を烈しき戦閉の中不投じ棄る所の馬
 を二個まで打倒され衣る所の衣は四個の彈丸
 不貫られ特不土人は再三ワシントンを狙ひ
 撃ちし由遂不一も當らば無難るて其場を免き
 たり斯て英人は若干里逃げ走りブラドックの大
 軍は佛人并土人の小軍不打破られたり初めブ
 ラドックの攻め來りしときは佛將その砦を棄ん
 と思ひし由一の士官の勸ふよりて踏み止り此

の如き勝利を得たり

千七百五十六年丙子宝曆不當り佛よりモントカー

ムといふ將軍を亞國不送りしが此將は実不拔

群の英雄あり叔モントカームは英の情不あり

て敷多の地を取りたり遂不佛人并土人の大軍

を率ひニウヨルク不進み来りジオルジ湖の南

濱にあるウルリアム、ヘンリー砦を囲みたりしが

守砦の將は勇しく抗守し他の砦を守るゼ子ラ

ールウエブの援を望みし不ウエブはモントカーム

を恐れ救援なきがれども尚此守砦の將は畏る
る色なく防ぎ戦ひ砲の破裂し弾薬の尽る不
及ぶすでは砦を渡さざりしとぞ

佛人并土人との戦の終。并ゼ子ラールウルク

モントカーム戦死の事

英人の敗軍せしは其將の不能より起りし由へ

不千七百五十八年戊寅寶曆数人の良將を選び拵げ

たり叔此將の一人ノアスコシヤの北東にある

崑上の佛佛不属せしルイスボルク砦を攻取りたり
 此時佛將は実不よく拒ぎ軍船を失ひ大炮を
 壊り墨壁を破るまで防守志たりしが尚此期不
 及でも人民の願ひ不あらざれば此砦を渡さざ
 るを多しと決せり叔又佛將モン下カームはチカン
 デラゴ不ありて勝れたる英軍不襲せられたりけ
 れども遂不英軍を打ち破りたり
 ジユカン砦不向ひたる英軍の先鋒は打破られ
 たりどもワシントン并勇猛ありウオルシニヤ人

此砦不近つきしとき守砦の將は火を砦不放て
 小舟不乗り退きたりワシントンは国旗を崩さ
 たる砦不ひきかへ飄しその地を有名の政事家ピットの名
 不ありてピットスボルクと名けたりあつ此後ワシント
 ンウオルジニヤ不歸りしが大なる光栄をもつて
 接待を受け其地議事官の負不選挙せられり
 此時不當り佛領の堅固なる要害はキユビツキあり
 叔その炮台は高さ二百尺ある鉛直の岸上あり
 りて其造営最も堅牢あり斯てモン下カームの

大軍去きを守りたりしが英人は去の炮台を取らんとして勇將ウルブをさし向けたりウルブは八千人を將て数月キビツキ向て陣取り種々手段を尽せども要害の堅固あるがため其功あらざりける今は一計を得て夜中不上陸し樹根岩角を攀ぢ上り頂不達せしが佛の番兵より放炮しければ此番兵をち拂ひ夜明不^および英の全軍皆頂不達したりモントカームは去れを聞きその全軍を進め英軍不^おてかく

り猛烈ある戦ひ不^およびしがウルブは再度傷を受けたれども尚英軍を指揮したり又一丸来りてウルブの胸を洞し遂不^お地不^お倒きたりりれば後陣不^お荷ひ去られし不^お。彼等は走る。彼等は走るといふ声を聞き死おんとせるウルブは誰が走るや。誰が走るや。と問ひし不^お。佛人ありとの答を聞き然れば我は満足して死すと云て終不^お息は絶不^おけりモントカームも二回傷を受け去れがた死せしが其死不^お先だちて医師の言不^お死

は必然なりと云ひければモントカームは歎息
 した。予は之を聞くを喜ぶ。予はキビツギの降伏
 を見ざるを幸いと云ひたりしとぞ遂にキビツギは
 英に降り翌年モントリールも英に降りカナダ
 全地英人の手に入りたり。扱此二將の勇氣を歎
 惜し英人との戦場におおてウルフモントカー
 ム二名を載せたる碑を建てたり
 英もては軍用の金巨万を費したり。けれど大
 新新世界におおて英領を増したり

革命の乱の濫觴

此時不當り殖民地は静謐におありしふより之は
 自由の権を興へしめおれば必だ繁栄お赴くべき
 小英王並其議事院の者等殖民を管理し其事務
 は挿手せんことを要したり。扱又是より先き殖
 民地の数多の鎮臺皆人民の事お注意せば其身
 を肥し人民の通誼を棄へり然るとも畏おなき
 亞国の民は之にお服すことを好まざりし。或時全
 新英の鎮臺たるアントロース。コン子クチコット

不赴き人民の受け持てる所の免許状をさし戻すべしといひたり。さて此免許状は先きの英王の典へつるものある不暴虐のジエームスカニ英名之を取上んと欲しアンドロースをさし向けしあり。然る不人民は其命不抗し此事を論ずる所の公堂不集りたり。此時議論未だ決せざる不既不夜子入り。燈火輝きてありしが。忽ち燈火消滅せり。よりて再び燈を点ぜり不先き不几上不ありたる免許状をいつしり紛失して見へざり

し。但し是は或人取去りて大なる櫟樹の空洞不隠せりあり故不後日此樹を名て免許状樹と唱へたり此後二年を歴てジエームスカニは暴虐なる不より英國人民堪へざりして。その王位を廢したり斯て殖民此事を閉きアントロースを捕へ英國不さし戻し貴重の免許状を空洞より曳出したり

此後数年よりて英王はフレッチェル不コン子クチコットの民兵を指揮するの權を典へしうばフレッ

千エルは民兵を閲せんためハルトホルドを集ま
 る奮きの命を出せり然るふ人民は自己の士官
 を得ん去とを願ひたり。さてフレツキエルのハルト
 ホルドふ来りしときウツトスオルスと云ふも
 の。人民の首領として大なる人数を將てフレツキ
 ルの前ふ現きたり。斯てフレツキエルは書記官ふ命
 じ其身コン子クチコツトの民兵を指揮すべき英
 王の命令状を讀み立つべしと去ひけるがウツ
 トスオルスの合図にて忽ちおせい鼓声高く發し書記

官の讀立る声を壓してりればフレツキエル静しづまれ
 と叫て之を制し又書記官をして讀立しむるふ
 又早くも他の声を壓するほどの響きよて鼓を
 亦鳴らしければフレツキエルは大ふ激怒し又静ま
 れと叫びけるが鼓声の止やむや否いなウツトスオルス
 は拔身の劍を提ひきけ猛然とて進み出下フレツ
 キエルふ向ひ再び打鼓たたを妨くるあらば汝の胸を
 貫て。日光を照徹せんたいきうつと云ひければ。今はフレツキエ
 ルも詮方なくコン子クチコツトの民兵を其首領ふ

任せたり

佛并土人との戦を口実とし。亞国より金銭を統しほり取んた免英王かよび議事院の者等。此軍事を。殖民保護のためとし。此軍費を償ふべき去とを憑拠とし。亞国不輸入せる物類不税銀を加へたり然る不植民等軍費を償ふ去とを嫌ふされど議事院をかみて植民等より税銀を取るべき通誼あき去とを主張せり。その由へは此院へ植民等より。さし出し。各代人あければ之これ不服す

べき謂れありとあり千七百六十年庚辰不當り議事院より憎むべき税を取るための新法を設けしうば植民大不沸騰し會議を催し議事院の暴ある權威を抵抗せり又千七百六十五年甲申不當り議事院をかみて印紙税の法を設けたるより沸騰の勢。一層増加せり。さて此法より新聞紙并曆書約定書等不用る紙は。一セントより殆んど三十ドルラルまでの値をもて。本國政府より賣る所の證印を保つ去とを要せり

斯て植民等は此税不抵抗し。若し止むを得ずんば兵力をも用かべしと決心せり

印紙税の法施行の新関。ウオルジニヤ不達せしとき植民地よて議事會をなしてありしが此會の人負中不バトリックベンリーといふ一個の法律者あり。此人は怯心なき能弁の少年にてありしが。此法施行の去と不付き国の通誼を害するを怒り。乃ち此法を意とせだ。各人望む所の紙を用ん去とを衆人不諭告し。且人民を苛虐不扱ふ所

の国君の危を説かんがた免。議事會の席不於てヘンリー云ひぬるはシーサル羅馬不ブロチエスありチヤトレスオ一璞不コロウエルありジヨ一ジオ三と説きか。りしが叛送よ叛送よと呼ぶ声発したりヘンリー又云け。はオ三は此等の例を以て裨補せよ若しこれを叛逆とあさば。これより最もよく裨補せよと説きけるが。此論より。大に諸人の精神を励まし。因て印紙を賣るを命ぜられし人の像を焼くものありたり叔

印紙を積みたる船の到着したりしとき人民鐘
 を鳴し喪服を着して市街を徘徊し印紙の入
 たる諸函を破却し且之を配分するものと之を
 用るものとの層したり。之よりて英国の議院
 にて之を止められたれども尚税を取るべき権を主
 張し植民地は輸入する茶玻璃紙繪の具諸品小
 税を加へたり故に植民尚滿意せずしてありし
 が英国より植民を服従せんため兵隊をボスト
 ンに向け送りければ植民等の怒気尚一層増し

たりさて此兵隊到着の後兵卒ども人民に對し
 粗暴の振舞をなし遂にボストン人と争を起し
 ボストン人三名を殺したりこれをボストンの
 虐殺と稱す
 英国の議院もても茶の税を取るのみならず他品
 よりの税は全く廢し送りけきば植民等少しも
 茶を用ゐざらんことを決心せり。よりて茶を積
 み来りし船よりその荷を陸揚せしめざるのみ
 ならん英国も遂に歸したりしが又ボストンへ

三隻の船。茶を積み来りしときその地の鎮臺。船の帰る可^べらざるまゝ。その荷を陸揚すべき去とを主張せり斯^かて一夜人民隊を結び土人小^ま拵^だして船中不^え赴^まき茶を尽く港内不^ま拵^だ捨てたり。之ふよりて當時ボストンの港は大なる茶^{ちや}銚^さ小^こふされしといふ話あり

此時ゼ子ラルゲイヂマサキセトの鎮臺ありしが。人民と親睦を結ばんとはせざ。その兵卒等をして益く人民を激せしめたり。よりて児童等ま

でも逃^に避^ひせざる気^きふありたり兵卒等曾^かて児童等の嬉^き戲^ぎを妨^さげしとき児童等その暴^{ぼう}挙^{きょ}動^{どう}を難^{なん}じられば。兵卒等より之^を童^{どう}賊^{ぞく}と名^なけたり遂^すに児童等ゼ子ラルゲイヂの許^{もと}に往^ゆき。満足^{まんじつ}を要するため来^きりし旨^{しみ}をゲイヂに語^{かた}りたりしがゲイヂ云^いひけるやう。あん^と汝^に等の父^{ちち}。汝^に等不^ま叛^{はん}逆^{ぎやく}を教^{おし}へ。これを表^{あらわ}せんがため汝^に等を此^{こゝ}に送^{おく}りたりといひられは。児童等答^{こた}へて一人も我^{われ}等を送^{おく}りたるものあり。我^{われ}等は曾^かて兵卒等を害^{がい}した

るおとあし然る小兵卒等我等の雪山を毀ち且
氷沓不用由る池の氷を壊りたり。よりて我等よ
り之を愁訴せし小兵卒等我等を指して童賊と
名けたり又昨日も兵卒等我等の業を害しけれ
ば我等の害を受けたる去と既三回不至りた
り我等は最早堪る能をじといひられば世子ラ
ルの答へ小往け勇しき児童等よもし兵卒等再
び汝等を害さば必だ罰を加ふべしといひたり
けり

千七百七十五年安永乙未に當りウオルジニヤより集
會ありしが名高き辯論家ある。パトリック、ヘンリー
その會負ふ加りたりへンリー論と作るやう我
の外他のもの此如何ある行為をなすやを我は
知らざるあり。請ふ我小自由を興へよ否らざる
ば我小死を興へよ。と云ひらば此論全植民地
小裏きわたりたり

初戦の事 此処小革命の戦のふとを始めて
記してある由へ初戦といふ

千七百七十五年乙未未不於て疾く知悉りたりた
 る戦争起りたり是は革命の戦争として知悉り
 たりたりものあり此年の始不英國の議院にて
 マサキユセツ叛乱の去とを布告し許多の兵隊を
 さし向けたりゼ子ラルゲージは既不ボストン
 と大陸とを接す。所の地峽あるボストン頸と
 稱する所不砦を構へたり故不義人輩は此砦あ
 るがた免軍需を得るふさし支難儀せり。よりて
 此輩は大炮を肥の荷の中不匿し火薬等を市籃

と燭函と不隠したりければ疑を受けずして
 番兵の前を過ぎ得たり。さて義人輩はボストン
 より数里隔りたるコンコルトへ多量の軍需を
 集め貯へたり此事を聞きゼ子ラルゲージは或
 る夜その軍需を打ち崩さんため。八百人の兵卒
 をさし向けたり然して此兵の拳動極めて隠密
 にしてありしうども義人輩早くその計を知り
 得てぬれば美軍コンコルトより向て進みしとき
 過る所の地不おろて鐘声并炮声その周廻より

聞へたり蓋し此發聲は三ニユートメン事ありしき呼出し
て兵士を集合するの合図ありしとぞ

ホストンとコンコルトの間ホレキシングトン
村ありしが英國の軍兵は夜明の頃。此处不到着
し緑野ホカゐて三ニユートメンの一隊を見受た
りしホ英將進みて銃を放ちつゝ汝輩逆賊散れ
よ。散きよ。と叫びしらば英兵隨て銃を放ち数多
の亞人を打ち倒したり。これを始めての戦とす
叔英人は是よりコンコルトに進み入り一隊は

此地の橋を守りその餘の隊は軍需を打ち崩さ
んとて出てたりしが亞国の民兵来りければ此
橋の辺より小戦ありて双方死傷の數多くあり
し。さて英人は出でし所の兵隊の歸るを待ち早
くも退陣せんとせり此時亞人は二門の大砲を
毀たれ砲丸を多く河と井とに投げ入れらむた
り加之穀粉殆んど六十桶を破壊せられたり亞
人は美人の来り前ホ軍需の多くを安全の場所
に運びかき大量の穀粉は製粉渡世のホウ井ラ

ル小救をぬぐりさぐ穀粉は自己の所持の品と
共ニ小屋の内ニ納きてありしが英人は探索の
ためニこれ小来まりその時ホウヱラル云ひけ
るまは。我身は製粉を渡世とし。穀を挽くを業と
するものあり。とて其手を自己小属する桶上小
かき。又云けるは。是は我が穀粉あり必は足下輩
は私有の品を毀たざるあらん。と云へり。よりて
英人はこれを信し害を加へずして立ち去りた
り。又英人は此の帰路におゐて甚しく困難小

逢ひたりその由へは追々合図も各所小廣まり
義勇の人々来到し身を小家又は樹木籬笆の後
ふかくし。退き来る英人小恐ろしく銃をおち掛
けたり時小英人は返放したりしがその甲斐も
あつりしあり此のおとく難義し兵隊の数は減
じ兵卒の力は疲まつて退きければもし新兵の
救援あくんば決してポストンまで達し得ざり
しあらん

レキシングトンの戦ひの新聞は一般小起り立

所ところの合図あひびきもあつたり農夫は耕業を廢し工師
 は製造所せいぞうじょを離れ老人小童までも軍装いくさぶらも急ぎ妻
 は夫おつとの劍を磨とぎし母はその子の武運ぶくわんを祈りその
 国のため戦いくさに赴おもむくべしと命じたり。此こゝ或ある母の話
 あり。その母。獵銃りやくじゆと錫すずヒをもつて作りし弾丸
 を長子ちやうしに與へしがその末子の十六歳あるもの
 りは鑄やひ刀かたなの外。與あたるものあらざれば母これに對
 し流涕なみだしてその兄あにに從したがふがへと云ひつけ。我わが子こよ。
 汝なんぢぢぢ一刀いちぼを乞こへ。又は借用かいくわんせよ。又また我われは汝なんぢに請こ合ご

あり。必ず臆病おくびやうもの此こゝ逃去にげるものあらん。然
 らばその銃じゆを取りて前進ぜんしんせよ。と云ひたりしと
 ぞ

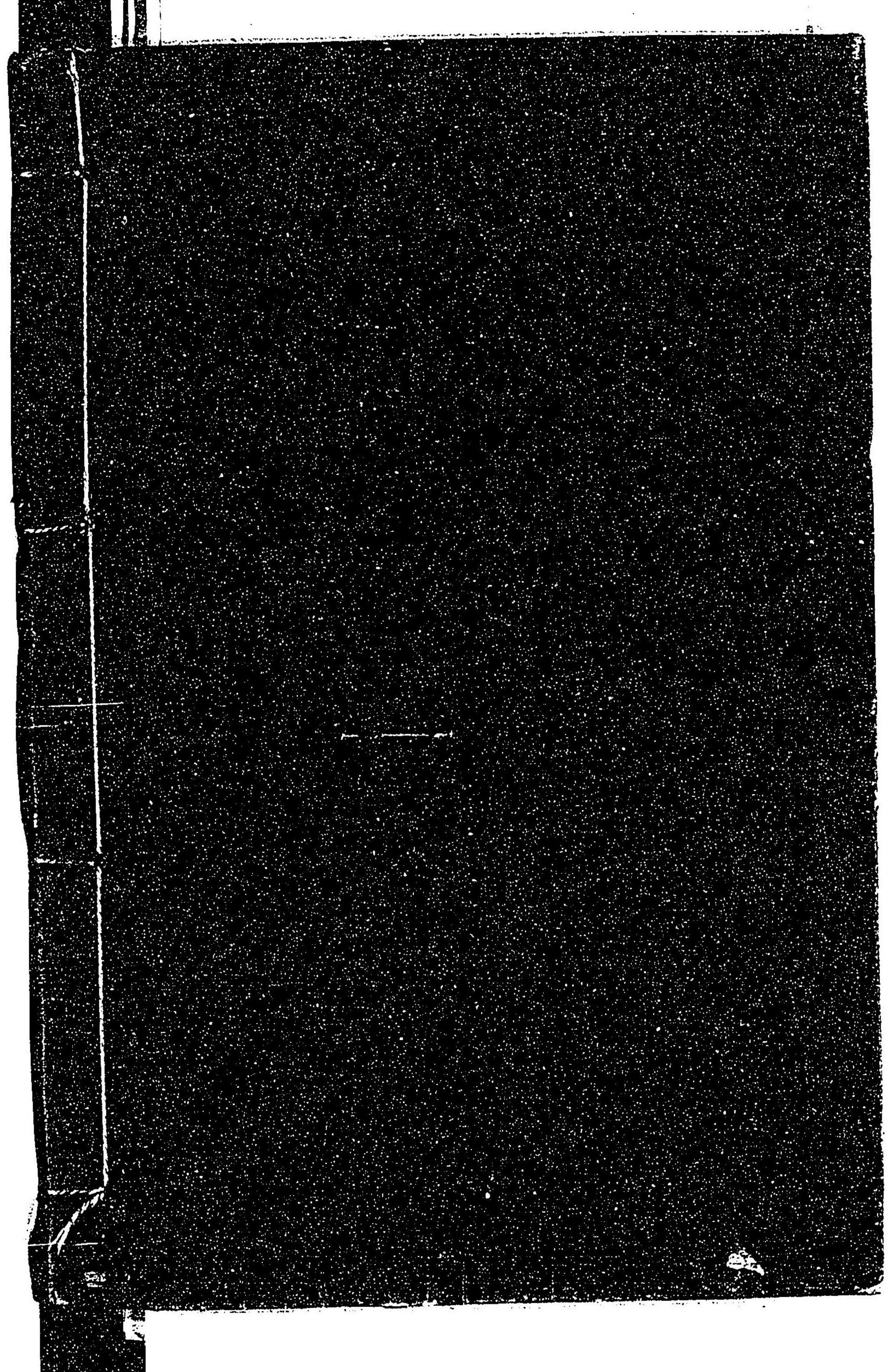
バルンステールブルバルンステールブルに於おて農民にんみんの一子いちしカムブリッ
 デデに進む所の仲間仲間に加かりたりしが此こゝ仲間仲間のも
 のども此こゝ子の父の家を過ぎたるとき父出いで来
 りて云ふやう。上帝かみ。汝なんぢ等らと共にあり。ジジオンオンよ。汝なんぢ
 ぢ戦いくさに臨まば勇ゆうしく戦いくさふことを意いに掛かよ。否いなら
 ずんば汝なんぢの面めんをして再びまた我われに見みせしむる勿なれ。

と語りたり嗚呼各地方の精神此のおとし斯て
ホストン近傍におゐて義人輩軍装をふして集
りたる處と。二万人におよびたりとぞ

東京書林

淺草茅町貳丁目

須原屋伊八版



特32

200